



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



基礎研究と臨床研究の連携

歯科病院長 榎 宏太郎

臨床医学と基礎医学は、20世紀後半から目指す方向が少しずつ変化してきました。代表的な学術雑誌も、臨床医学においては、臨床報告や統計中心の Lancet や New England Journal of Medicine が挙げられ、基礎医学では、分子生物学が中心の Nature や Science とされております。



ある学会では、臨床研究と基礎研究の違いとして以下のような内容が講演されました。

	[臨床研究]	[基礎研究]
動機:	治療への願い	真理への探究心
対象:	患者試料, 検体	動物, 培養細胞
前提:	個体差あり	ほぼ同一条件
統計:	複雑でぼんやり	簡単で明らか
結果:	ネガティブ可	ネガティブ不可
発表:	可能性の示唆	応用領域を説明

少し違和感を覚える部分もありますが、凡そ是を得ているようにも思われます。それぞれの領域が活性化し、様々な新しい発見で、層の厚い医学が発展して来ましたが、最近では、基礎と臨床、それぞれの高度化が進み、その『橋渡し』的なシステムが少ないこともあって、基礎的研究成果が直接的に臨床の現場に応用されにくくなっている点も懸念されつつあります。例えば、様々な生物学的反応の分子レベルにおける機序が明らかにされても、それに基づいて新たな治療法が開発されるまでには相当な時間を要してしまいます。そのため、大学は臨床に還元できる研究を積極的に行うよう社会から強く求められています。文部科学省も費用対効果の観点からトランスレーショナルリサーチに力を入れるようになって来た要因もここにあります。先の比較表を発表した講演者も、医学をより大きく前進させるブレークスルーを得るには両者の緊密な連携しかない、と述べております。

では、この連携を緊密にしてもっと円滑に進めるためにはどうすればよいのでしょうか？

筆者は、まず、以下の三点が重要であろうと考えます。

- 1) 基礎研究成果を臨床的な観点から考察できること
- 2) 臨床症状をより基礎的な理論から説明できること
- 3) 自身の研究の必要性を一般に伝えられること

皆様もいろいろなお考えをお持ちのこととされます。また、将来、専門医制度が導入されると、大学院の研究体制や人員数にも少なからず影響を受ける可能性もあります。

今から、是非、歯学部としても斬新なアイデアを結集しましょう。

CBTワークショップが開催されました

共用試験 CBT 実施責任者 北川 昇

快晴の5月7日(土)に旗の台1号館5階会議室とPBL ルームにおいて、平成28年度共用試験 CBT ワークショップが実施されました。医療系大学間共用試験評価機構から荒木孝二先生(東京医科歯科大学教授)、小関健由先生(東北大学教授)をタスクフォースにお招きし、宮崎歯学部長、美島教育委員長の挨拶の後、ワークショップが開始されました。今回の参加者は21名でした。

午前中は、CBT 作問時の注意事項と良問・悪問について A・L・W・Q 問題についてそれぞれのレクチャーがありました。午後は、スモールグループに分かれて事前に作成してきた各自の問題のブラッシュアップを行い、その成果を発表しました。今回の参加者は若手の先生も多く、各グループとも大変活発な討議が行われ、充実したワークショップとなりました。特に W 問題をターゲットにしたブラッシュアップでは、昭和大学の強みであるオール昭和(基礎と臨床の連携)を再認識することが出来ました。

最後に参加者全員に修了証が授与され、関係者としては次年度の採択率が少しでもアップする様にさらなる努力を心に誓い、ワークショップは無事終了しました。



国際障害者歯科学会 iADH の理事長に就任しました

口腔衛生学部門 弘中祥司

本年4月14～17日に行われました、第23回の国際障害者歯科学会(iADH)の学会(シカゴ)において、iADHの理事長に無事就任する事となりました。日本人では、日大松戸歯学部の前教授 上原 進先生以来の2人目で、感無量の思いです。

これまでiADHは、各国の障害者歯科に関する学術団体から、その会員数に応じて会費を集めており、会員数4000名を超える我が国はもちろん、世界一高額な会費を納入しております。今回は、その会費納入率の高さも、理事長選出の一助となっており、その点において、これまで着実に会員数を増加させてきた、日本障害者歯科学会の諸先輩に感謝を申し上げる次第であります。

さて、理事長となった自分には、大きな課題があります。それは、地域の団体を創生すること、すなわちアジア障害者歯科学会を立ち上げることです。しかしながら、アジアといってもとても広く、これに関して、どこで線引きするのか、日本障害者歯科学会、さらには各国と協調して進めたいと思っております。いずれにせよ、2年の任期なので、スピーディーな対応が求められております。2年後のiADHの大会はトルコのイスタンブールです。本学からも、たくさんの応援をよろしくお願いいたします。

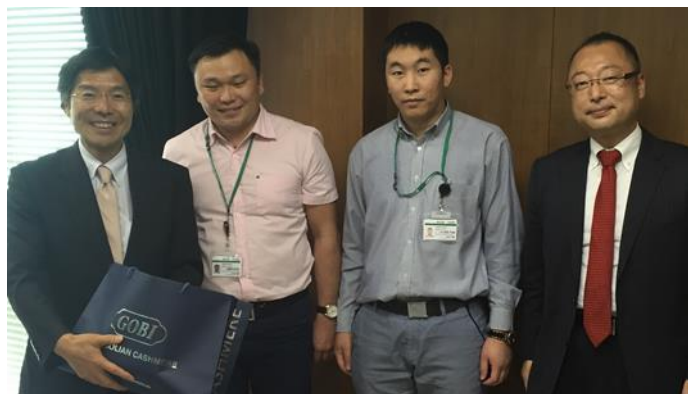


モンゴルから2名の留学生がきました

口腔ケアセンター 弘中祥司

本年の5月より3か月間、モンゴル国立医科大学から昭和大学口腔ケアセンタープログラムに応募してきたモンゴルからの留学生2名が来日されました。このプログラムは、昨年、山本教授と桑田教授がモンゴルを訪問された際に、話し合われた留学プログラムで、その後、山本教授と私が、プログラムの内容を吟味してきました。3か月間の口腔ケアセンターを中心としたプログラムを2名ずつ、2回に分けて行う予定で、今回は、男性2名が来日され、9月からは女性2名が来日されます。今回来日された先生は、Ganjargal GUNBURGED 先生38歳とBat-Erdene MYAGMAR 先生28歳です。モンゴル語の発音はとても難しく、ガンジャー先生とバデー先生と呼んでおりますが、ガンジ

ヤー先生は東京医科歯科大学で学位を取得され、6年間日本に住んでいましたので、とても日本語が上手な矯正歯科医です。また、バデー先生は、日本語・英語ともにたどたどしいですが、モンゴルでは補綴を専攻しており、日本の高齢者医療について興味を持っています。2人とも、生の肉・魚は苦手ですが焼肉大好きな親日家です。6月から、各診療科を回り、7月には各病院を回って研修を終えますので、ぜひ異文化交流をお願いしたいと思います。



ブリティッシュコロンビア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 丸山恵莉

4月11日～4月30日の3週間、カナダにあるブリティッシュコロンビア大学(UBC)で6年次選択実習を行いました。私は幼少期をカナダで過ごした事もありますが、多民族国家であるため様々な背景をもつ学生と知り合えると思い参加しました。

初日には昭和大学でも講演して下さいましたDr. Shahと再会し、大学案内をして下さいました。実習は3-4年生の授業及び実習の見学が主な内容です。インストラクターの監視の元ではありますが、大学内ではすべて学生が治療している事に驚きました。実習中、日本では少ないアマルガム充填を経験させて頂いたのは印象的でした。その他、貧しい地域での無料歯科診療ボランティアの参加、現地の開業医見学、在学生との食事やハイキングなど、公私ともに充実した日々でした。最終日に、歯学部長である Dr. Schuler が修了証を下された際には達成感を覚えました。今回の実習を通して、積極性と社交性がいかに重要かという事を知りました。どの場面でも自己紹介や質問等を通してコミュニケーションを取ることで、新しい繋がりがりや経験が増えたように思います。歯科学生としてだけでなく、人間としても少し成長できました。支援して下さいました先生方、貴重な体験をどうもありがとうございました。



ブリティッシュコロンビア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 小倉 董



4月11日からの3週間、カナダのブリティッシュコロンビア大学で選択実習を行ってきました。

午前中は主に3年生の講義やPBLを聴講し、午後はクリニックの診療を見学をしました。私達は、実習の大学内の見

学の他に現地の開業医とボランティア医療の現場で診療を見学することができました。カナダでは3-4年生のうちから実際の患者さんを先生の指示を得ながら学生1人で治療することができます。その中で学生が治療に戸惑うことがあっても患者さんは嫌な顔することなく、治療をすることができていることに感動しました。歯科医師の資格を得る前にたくさんの経験が積めることがとても良いと感じました。また、日本よりもさらに衛生管理には重きを置いているようにも感じました。診療の見学では保険制度があるかないかでの治療の質の違いを目の当たりにしました。そのことを踏まえ、日本の国民が8020を達成し貧困の差にかかわらずとても良い医療を受けられていると感じました。

現在の日本の歯科医師の地位に疑問は持つことは多いですが、それでも日本が行っている歯科医療がとても質の高いものだと感じ、日本の歯科医師を誇りに思いました。選択実習を通して日本では味わえない刺激をたくさん受けました。また、将来のために助言やヒントをくれるような素敵な先生、学生たちとの出会いがありました。学生のうちにこのような機会に恵まれたことを心から感謝したいと思います。今後つながりを大切に、コミュニティーを広げていくことが目標です。また、大きな目標に向けてまずは自分のできることから一つずつ取り組んでいこうと思います。



南カリフォルニア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 岩下由樹

私達が実習させていただいたのは、Orofacial Pain and Oral Medicine という口腔顔面痛・口腔内科です。そこでは、Online Master of Science in OFPOM という

オンラインで OFPOM について学べるシステムの症例作りをメインに行ないました。私は顎関節症についての症例でした。こんなにも短期間に集中して顎関節の疾患に向き合ったのは初めてだったので、とても勉強になりましたし、顎関節の分野に大変興味がわきました。今回何よりも学んだことは、自分の意見を英語で伝えること、相手の言っていることを理解することはもちろんですが、大前提として日本語でのこれまでの歯科についての学習、理解がしっかりしておかなければならないということです。日本での歯科治療との違いは当然あり、自分が学んできたこととの違いに気づくこと、そしてその違いをまず受け入れる必要がありました。歯科において先進国と言われているアメリカの素晴らしさをたくさん実感することのできる実習でした。それとともに、日本の診療システム、治療方法



などの素晴らしさも改めて感じる事ができました。このような貴重な機会を与えていただいたことに深く感謝いたします。

南カリフォルニア大学での選択実習に参加しました

歯学部6年 HAN JAMES HYUNWOO

南カリフォルニア大学に5月17日から2週間行ってきました。アメリカにはその2週間前から滞在して観光と英語の勉強をしました。南カリフォルニアはユニバーサルスタジオやディズニーランドなど観光する所が多く、様々な国の文化が混ざっていて学校以外にも楽しい時間を過ごす事が出来ました。南カリフォルニア大学に通った2週間は、クラーク教授の元で今までの昭和大学で受けた教育とは違うやり方の学習が出来ました。自分で仮想の患者さんを設定し質問に対する答えを調べることから始め、外来の見学や授業で使うビデオの製作にも協力できました。学校にいる時間の間に大学のスタッフと話すことによってアメリカの歯科事情について聞くだけではなく、日本の歯科事情についても話せたので、とても有益な時間だったと思います。南カリフォルニア大学は中心地からとても近く周辺にはコリアタウンやリトル東京もあり、大学が終わった後は近くでアメリカン式の日本料理を食べることも面白いと思います。



亀田総合病院での選択実習に参加しました

歯学部6年 金箱志桜都

私は、5月9日から2週間、千葉県鴨川市にある亀田総合病院歯科センターに選択実習として参加させて頂きました。

私が亀田総合病院での実習を選択した理由は、大学病院以外の病院を見学することで、見識を深



めたいと思ったこと、亀田総合病院は南房総地域の医療を一手に担っており、様々な患者さんが集まること、そして一般歯科から小児、矯正、障害者などの歯科と口腔外科がすべてあり、すべてを見られることができると思ったからです。

この2週間のプログラムは研修医が経験する1年間を凝縮したもので、中央手術室での手術、歯科外来、病棟や施設への訪問歯科、小児歯科、矯正歯科などを見学させて頂き、充実した選択実習となりました。外来の見学では、見学のほかにアシストにもつかせて頂き、実際の臨床を体験することができました。基礎的なことも優しく教えて頂き、試験のための良い勉強になっただけでなく、教科書には書いてないようなワンポイントアドバイスは将来必ず役に立つと思いました。来年以降、昭和大学以外に選択実習で行く方は亀田総合病院を強くお勧めします。

富士吉田での地域医療実習に参加しました

歯学部6年 堅田凌悟

私は、5年次における臨床実習で歯科医療の基本を学び、6年次では自身の興味のある分野を深く学ぶため富士吉田での地域医療実習を希望致しました。富士吉田での2週間の実習は地域病院、歯科医院、ケアセンター、在宅診療の見学をしました。最終日には、在宅医療について富士吉田市内の医療従事者を迎え、実習の成果を発表いたしました。

この実習を通し患者さんの退院後の在宅での継続的な歯科診療と口腔衛生維持の重要性と難しさを痛感しました。要介護度の高い患者さんは義歯をされていない方が多く、噛まずにすむ柔らかい食事をさせています。不適合の義歯を使用せず放置することの問題点をケアマネージャーなどの医療従事者間での認識の違いから歯科医療の介入の機会が少ないこともあるようでした。食べ物を噛んで食事をするこ

とが必要なのか？噛むことの重要性など、口腔関連QOLを向上のために、歯科医師がご本人、ご家族の他、ケアマネージャーやヘルパー等の医療従事者への指導と継続的なフォローをすることは在宅歯科治療での歯科医師の重要な役割であることを学びました。今後は地域医療において自身がすべきことについて考え学習し、少しでもその役割を担えるよう努力いたします。



実習でお世話になった患者さん、先生方へ御礼申し上げます。

平成28年度科学研究費補助金交付内定状況

研究活動委員会 上條竜太郎

去る4月1日、文部科学省と日本学術振興会は、平成28年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。

歯学部全体の交付内定状況(5月13日把握分、研究活動スタート支援新規分を除く)は下表の通りで、平成27年度と比較して交付内定件数は約3%減少(3件減少)、交付内定金額は約14%減少(1770万円減少)しましたが、交付内定金額の総額は昨年同様1億円を超えました。なお、ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、財務部研究支援課にお問い合わせください。

	平成27年度			平成28年度		
	新規	継続	内定金額	新規	継続	内定金額
基盤研究A	0	0	0	0	0	0
基盤研究B	2	4	28,300,000	0	6	15,400,000
基盤研究C	15	24	44,400,000	13	25	44,400,000
若手研究B	14	15	36,200,000	11	15	31,600,000
研究活動スタート支援	4	5	9,300,000	申請中	4	4,000,000
挑戦的萌芽研究	5	3	11,400,000	4	6	12,100,000
合計	40	51	129,800,000	28	56	107,500,000

行事予定

広報委員長 中村 雅典

- 6月4日(土) : 富士吉田体育祭
- 6月5日(日) : 富士吉田オープンキャンパス
- 6月11日(土) : 父兄会総会
- 6月18日(土) : 昭和大学白菊の集い
- 6月25日(土) : 昭和学生会例会(歯科病院)
- 7月8日(金) : 夏季スポーツ大会壮行会
- 7月24日(日) : 歯学部オープンキャンパス

編集後記

口腔衛生学部門 内海 明美

GW明けのお忙しい中、寄稿頂いた皆様には感謝いたします。まだ5月にも関わらず全国的に真夏を思わせるような陽気が続いております。熱中症には十分お気を付けてください。